



市報まつら No. 102
平成26年6月1日発行

PROFILE

佐々木 恭子さん
 きょうこ
 御厨町西木場に住む 35 歳
 夫、愛猫(相汰郎(オス))と暮らしています。
 趣味は読書と落語を聞くこと



■今月の表紙

松浦市消防本部でのレスキュー訓練のひとつ。災害や事故発生時の厳しい状況下でも、安全・確実・迅速に尊い命を救い出すために、隊員たちは、実戦さながらの緊張感と集中力で何度も訓練を繰り返していました。

ハードな訓練に表情を歪めながらも、人命を守る者としての誇りと責任に後押しされるように、歯を食いしばり懸命に体を動かしていました。

○職業・仕事内容

独身のころは、実家のある諫早で洋菓子製造の修業を13年続けていました。
 平成22年に松浦へ嫁いで4年が経ちました。現在は、主婦業に勤しむ傍ら、時々「新鮮市場じげもん」で店番をしています。

○目標・夢

結婚と同時に大病を患い、治療を受けたことがきっかけで、大村市にある「国立長崎医療センター」内で週に1度、ピアサポーターとして、同じ病で悩みを抱える患者の皆さんの傾聴ボランティアを行っています。
 多くの人たちに支えていただいた感謝の気持ちを少しずつ返していきたいと思っています。
 松浦でも、自分の経験や知識を役立てることが、できればいいなと思っています。
 ※次は、一丸裕美子さん(調川・七区ノ二)にバトンタッチ!

■人の動き

※()は、前月との比較

人口	24,554
	(- 27)
男	11,743
	(- 27)
女	12,811
	(0)
世帯数	10,272
	(8)

住民基本台帳から

※制度改正により、外国人住民も住民基本台帳に登載されるようになりました。

平成26年5月1日現在

■編集室から

梅雨の時は、どんよりした天気が続く、湿度も高く「梅雨は苦手」という人も多いと思いますが、この時期の雨は、植物の成長や水源の少ない地域にとって大切な恵みの雨となります。

また、日本語には雨が付く言葉も多く見られ、古くから日本人は、雨の景色に風情を感じ、楽しんでいたようにも思えます。

しかし、風情を感じられるのも適度に雨が降る場合に限ること。最近では、大きな災害をもたらすような激しい雨が降ることも多くなりました。今月の市報でも災害関係の記事を掲載していますが、災害はいつ起こるか分かりません。災害から身を守るためにも防災への意識と日ごろの備えが大切です。

いの



イラスト (健)

長崎がんばらんば国体 2014

第69回国民体育大会 君の夢 はばたけ今 ながさきから

松浦市は「なぎなた競技」の開催地です。



古紙100%再生紙

この広報紙は環境と自然保護のため再生紙(100%)を使用しています。

編集発行/松浦市まちづくり推進課秘書広報係
 〒859-4598 長崎県松浦市志佐町里免365番地
 福島町からは:47-3011
 ホームページアドレス http://www.city-matsura.jp

☎0956-72-1111 FAX 72-1115
 福島町からは:48-3011
 Eメールアドレス matsura@city-matsura.jp
 印刷/有限会社タイムイ印刷